

令和5年(ワ)第24056号 国家賠償等請求事件

原告 (閲覧制限)

被告 国外2名

## 証拠説明書 (4)

令和6年8月14日

東京地方裁判所民事第17部合議1係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 南 出 喜 久 治 代

(主任) 同 弁護士 木 原 功 仁 哉

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
甲36	心臓超音波検査(簡易)報告書	写し	令和3年 10月11日	●●●● ●●病院	原告Aの令和3年10月11日時点の心エコー検査で、左室(LV)拡張能欄のE/A値が0.8であり(原告Aの年齢からすれば1.0以上が正常値である)、左室の弛緩障害が起きていた可能性があったこと
甲37	文献(医療情報科学研究所編「病気がみえる Vol.2 循環器[第5版]」110~125頁)	写し	令和3年3 月	(株)メディックメディア	心不全の概要等
甲38	文献(伊藤浩編著「循環器内科グリーンノート」62~65頁)	写し	平成28年 1月	(株)中外医学社	左室拡張能の評価として、E波とA波の比がE/A値であり、年齢による影響を受け、若年層は1.0以上であるが、55~60歳以上で1.0以下となるのが通常であること
甲39	心臓超音波検査(精密)報告書	写し	令和5年 11月15日	●●●● ●●病院	原告Aの令和5年11月15日時点の心エコー検査では、E/A値が1.5、E値が98.4cm/sであったこと
甲40	生化学検査等の結果	写し	令和6年6 月19日	●●●● ●●●●	令和6年6月19日に行われた原告Aの血液検査では、

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
				病院	NT-proBNP値が基準値 (121pg/ml以下) を大幅に 下回る42.5pg/mlであつた こと
甲41	文献(医療情報科学研究所編 「病気がみえる Vol.7 脳・神 経〔第2版〕」282~283頁)	写し	平成29年 11月	㈱メディ ックメデ ィア	顔面神経麻痺の概要
甲42の1	論文「Albakri K, et al., Bell's Palsy and COVID-19 Vaccines: A Systematic Review and Meta-Analysis. Vaccines 2023, 11(2), 236, Jan 20, 2023. (表題の和訳: ベル麻痺とCOVID-19ワクチ ン: 系統的レビューとメタ分 析)」	写し	令和5年1 月20日	Khaled Albakriほ か	令和4年10月までの検索結 果だけでも、接種後のベル 麻痺に関する症例報告が多 数に及んでゐることから、 本件ワクチンとの因果関係 を否定し去ることはできな いこと等
甲42の2	甲42の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年8 月	原告ら訴 訟代理人 弁護士木 原功仁哉	甲42の1に同じ
甲43の1	論文「Ozonoff A. et. al., Bell's palsy and SARS-CoV-2 vaccines. Lancet. Feb 24, 2021. (表題の和訳: ベル 麻痺とSARS-CoV-2ワクチン)」	写し	令和3年2 月24日	A1 Ozonoffほ か	本件ワクチン接種後のベル 麻痺発症率は、一般集団で 予想される発症率と変はら ないと報道されてきたが、 実際には3~5倍や7倍に達 すること
甲44	文献(医療情報科学研究所編 「病気がみえる Vol.7 脳・神 経〔第2版〕」318~329頁)	写し	平成29年 11月	㈱メディ ックメデ ィア	多発性硬化症(MS)及び視 神経髄膜炎スペクトラム障 害(NMOSD)の概要
甲45	「視神経髄膜炎(NMOSD) Online」と題するウェブペー ジ	写し	令和3年1 月29日	中外製薬	視神経髄膜炎スペクトラム 障害(NMOSD)の症状
甲46の1	論文「Mirmosayyeb O, et al., Multiple sclerosis (MS) and neuromyelitis optica spectrum disorder (NMOSD) following COVID-19 vaccines: A systematic	写し	令和5年4 月6日	O. Mirmosayy ebほか	本件ワクチン接種後にMS又 はNMOSDが発症した症例報 告が多数存在し、その機序 も説明できることから、因 果関係を否定することはで きないこと

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
	review. Revue Neurologique, Volume 179, Issue 4, April 2023, Pages 265-281 (表題の和訳: COVID-19ワクチン接種後の多発性硬化症 (MS) と視神経脊髄炎スペクトラム障害 (NMOSD) : 系統的レビュー)」				
甲46の2	甲46の1の翻訳対比表 (抄訳)	写し	令和6年8月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲46の1に同じ
甲47の1	論文「Uzawa A, et al., Cytokine and chemokine profiles in neuromyelitis optica: significance of interleukin-6. Multiple Sclerosis, 16(12) 1443-1452, August 25, 2010. (表題の和訳: 視神経脊髄炎におけるサイトカインとケモカインのプロファイル: インターロイキン6の重要性)」	写し	平成22年8月25日	鵜澤頭之ほか	炎症性サイトカインであるIL-6がNMOの病態形成に寄与してゐる可能性を示したこと
甲47の2	甲47の1の翻訳対比表 (抄訳)	写し	令和6年8月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲47の1に同じ
甲48	「視神経脊髄炎を対象とするIL-6受容体抗体の有効性を検証する国際共同治験の結果がThe New England Journal of Medicine電子版に掲載」と題するウェブページ	写し	令和元年11月28日	国立精神・神経医療センター	IL-6の放出がNMOSDの発症結果を生じさせること
甲49の1	論文「Brigitte König, et al., Methodological Considerations Regarding the Quantification of DNA Impurities in the COVID-19 mRNA Vaccine Comirnaty®.	写し	令和6年5月8日	Brigitte König	ファイザー社製ワクチンの1回投与量あたりで検出された残存DNA量は3600～5340 ngであり、国際的な基準値 (10 ng/一回投与) の500倍に達してゐること等

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
	Methods Protoc. 2024, 7(3), 41.] (題名の日本語訳: COVID-19 mRNAワクチンコミナルティ®中のDNA不純物の定量に関する方法論的考察)				
甲49の2	甲49の1の翻訳対照表	写し	令和6年6月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲49の1に同じ
甲50	note記事「コロナワクチンの汚染DNA量は欧州医薬品庁(EMA) 基準値の500倍だった: methods and protocolsに掲載された論文から」	写し	令和6年5月23日	荒川央	甲49の1に同じ
甲51の1	ガイダンス「Guidance for Industry — Characterization and Qualification of Cell Substrates and Other Biological Materials Used in the Production of Viral Vaccines for Infectious Disease Indications」(日本語訳: 産業界向けガイダンス—— 感染症を適応症とするウイルスワクチンの製造に使用される細胞基質およびその他の生物学的材料の特性評価と適格性確認)の抜粋	写し	平成22年2月	アメリカ食品医薬品局(FDA)ほか	残存DNAは、発がん性及び/又は感染性の可能性があることから最終製品にとってリスクとなる可能性があるため、非経口接種の場合には残存DNA量を10ng/一回投与に制限すべきとされてゐること等
甲51の2	甲51の1の翻訳対照表	写し	令和6年6月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲51の1に同じ